

1. 科目名 (単位数)	心理演習 (2 単位)	3. 科目番号	PSMP3355
2. 授業担当教員	齋藤 瞳、飯野 嘉浩		
4. 授業形態	演習	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	臨床心理学概論、心理学的支援法(基礎、演習)、精神疾患とその治療、心理的アセスメント、関係行政論のすべてを履修済みであること。		
7. 講義概要	<p>本科目は、公認心理師国家試験受験資格の要件となる心理実習を行うための準備として、具体的場面を想定した心理支援に関する知識及び技能の基本的な水準の修得を目的とする。そのために、次の(ア)から(オ)について、基本的な知識を修得し、また具体的な場面を想定した役割演技(ロールプレイング)、事例検討を行う。</p> <p>(ア) 心理に関する支援を要する者等に関する次の(1)から(4)の知識及び技能の修得  (1) コミュニケーション、(2) 心理検査、(3) 心理面接、(4) 地域支援 等  (イ) 心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援の計画の作成  (ウ) 心理に関する支援を要する者の現実生活を視野に入れたチームアプローチ  (エ) 多職種連携及び地域連携  (オ) 公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解</p>		
8. 学習目標	<p>(ア) 心理に関する支援を要する者等に関する次の(1)から(4)の知識及び技能を修得する  (1) コミュニケーション、(2) 心理検査、(3) 心理面接、(4) 地域支援 等  (イ) 心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握について基本的な知識を修得し、支援の計画の作成について架空事例の検討を通して学ぶ。  (ウ) 心理に関する支援を要する者の現実生活を視野に入れたチームアプローチについて理解する。  (エ) 多職種連携及び地域連携について理解し、説明できるようになる。  (オ) 公認心理師としての職業倫理及び法的義務について理解ができる。</p>		
9. アサイメント(宿題)及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 傾聴は重要なものである。それを阻害する要因について述べよ。</li> <li>2. 認知行動療法による支援について考察せよ。</li> <li>3. 公認心理師のあり方について倫理の立場からまとめよ。</li> <li>4. 心理専門職を目指す動機について振り返ってまとめよ。</li> <li>5. 対人関係上の得意なところをどのように伸ばすか、苦手なところをどのように補完するか、それぞれについてまとめよ。</li> </ol>		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】日本公認心理師養成機関連盟『心理演習——体験を通して学ぶ公認心理師の基本スキル①』遠見書房  【参考書】日本公認心理師養成機関連盟『心理演習——体験を通して学ぶ公認心理師の基本スキル②』遠見書房</p>		
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準  学習目標にあげた(ア)～(オ)の5項目について、基本的な知識の修得、ならびにロールプレイングや事例検討への積極的な参加を評価する。  ○評定の方法  学則で定められた単位取得の条件(3/4 以上の出席)を満たしていることを前提として、授業態度と参加姿勢 50%、課題レポート 50%で判断する。</p>		
12. 受講生へのメッセージ	本教科は体験的に実際に身につけるところにその意味がある。従って、知的学習とは異なった受講態度が求められる。すなわち積極的なかわりである。他者の姿も見ながら学ぶこと。		
13. オフィスアワー	別途通知します。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	心理支援とは何か	事前学習	心理支援の目指すものについて復習しておく。
		事後学習	心理支援の必要性について整理する。
第2回	コミュニケーション①傾聴 言語的コミュニケーション 非言語的コミュニケーション	事前学習	カウンセリングにおける傾聴についてこれまで学んだことを復習しておく。
		事後学習	授業で扱った技法について確認し、実生活でその効果を確かめる。
第3回	コミュニケーション②アサーション 言語的メッセージ 非言語的メッセージ	事前学習	自分のコミュニケーションの特徴について考えておく。
		事後学習	授業で扱った技法について確認し、実生活でその効果を確かめる。
第4回	心理アセスメント①心理検査の実施 行動観察を含む心理アセスメント	事前学習	心理検査についてこれまで学んだことを復習しておく。
		事後学習	心理検査を通して分かった自分の特徴を整理する。
第5回	心理アセスメント②心理検査結果の伝え方 心理アセスメントのフィードバックについて	事前学習	心理検査の他者への説明の仕方について復習しておく。
		事後学習	心理検査のフィードバックの留意点についてまとめる。
第6回	心理アセスメント③DSM を学ぶ	事前学習	DSM を読んでみる。

		事後学習	統合失調症とうつ病について DSM の見解を確認してみる。
第 7 回	心理面接①認知行動療法による支援	事前学習	認知行動療法の考え方について復習しておく。
		事後学習	ストレスと心の 4 つの面との関係について整理する。
第 8 回	心理面接②認知行動療法の実施	事前学習	認知行動療法の技法について復習しておく。
		事後学習	授業で扱った技法について確認し、実生活でその効果を確かめる。
第 9 回	他職種連携及び地域連携① 保健医療領域における連携（医師の指示に関する法的義務の実際）	事前学習	心理師の役割と医師の役割の違いについて整理しておく。
		事後学習	精神医学の言語や連携の取り方について復習し、まとめておく。
第 10 回	他職種連携及び地域連携② 教育領域における連携	事前学習	いじめや不登校など、教育領域における諸問題について復習しておく。
		事後学習	授業の中で扱った事例における心理専門職の役割について整理する。
第 11 回	他職種連携及び地域連携③ 福祉領域における連携	事前学習	貧困や障害者支援など、福祉領域における諸問題について復習しておく。
		事後学習	授業の中で扱った事例における心理専門職の役割について整理する。
第 12 回	他職種連携及び地域連携④ 産業・労働領域における連携	事前学習	復職支援や従業員支援プログラムとはどのようなものか調べておく。
		事後学習	メンタルヘルスを健全にする職場になるためには、どのような対策が必要か考えてみる。
第 13 回	他職種連携及び地域連携⑤ 心理専門職のアイデンティティと専門性	事前学習	他職種と共働していく必要があるとはどういうことか考えておく。
		事後学習	連携がうまくいくための条件について考えてみる。
第 14 回	職業倫理及び法的義務への理解 インフォームドコンセント・人権擁護・守秘義務など。倫理ジレンマの乗り越え方を考える	事前学習	職業倫理とは何か、復習しておく。
		事後学習	倫理ジレンマにはどのようなものがあるか、更に考えてみる。
第 15 回	改めて心理的な支援のあり方を振り返る 学んだことのチェックをする	事前学習	これまでに学んだことを全体として見直しておく。
		事後学習	アセスメントが正しくでき、心理面接がうまくいっても改善されない時には、どういうことを考えたらいいか、考察してみる。